



果敢な挑戦を応援する、みやぎ工業会

プロジェクト進捗状況報告

2024年 12月25日

ものづくりカレッジプロジェクト

はじめに

第4回政策委員会での進捗報告では、「開学式」の実施計画や「第1回運営委員会」の結果について報告するとともに、会員企業の新卒求人に係る状況とそこから見える課題について論議し、学生向け企業情報発信について方向付けを行った。

10/31に「開学式」が執り行われ、県、大学、工業会とも、本プロジェクトへの期待も高まった。

また、「第1回運営委員会」での令和7年度実施イメージは、「就職支援」から「教育」に軸足を置くこととなり、令和7年度実施計画に向けた大学との意見交換も進めることとしている。

今回の報告では「開学式」の実施内容などを報告するとともに、今後の課題について報告する。

開学式について（概要）

- 1 開催日時 令和6年10月31日（木）午前10時30分から正午まで
- 2 開催場所 石巻専修大学 森口記念館（宮城県石巻市南境新水戸1番地）
- 3 主な内容（予定：変更になる場合があります）
 - （1）第1部（午前10時30分から午前11時10分頃まで）
 - イ あいさつ
 - ロ 来賓代表祝辞
 - ハ 来賓紹介
 - （2）第2部（午前11時20分頃から正午まで）
 - イ 運営方針の説明（学長）
 - ロ 卒業生によるトークイベント（4大学、4社）
- 4 出席者（予定）

招待者・参加者： 宮城県知事，石巻専修大学学長や各大学の工学部長，
みやぎ工業会理事長

来賓： 県議会議長（副議長），石巻市長，ものづくり企業等（15社）

開学式（2024.10.31）於 石巻専修大学

11/1付け河北新報朝刊に掲載



今後の実施計画について

11/25に宮城県富県宮城推進室と今後の進め方について協議した。その結果、以下の計画で進めることとした。

(1) 企業アンケート調査

本プロジェクトを推進する上で、採用に係る現状把握等を目的とし、工業会会員の全企業を対象に、人材確保状況等に関するアンケート調査を実施する。

調査内容は、①大卒人材の採用希望状況、②インターンシップ受入に係る現状、③各イベントへの参加希望等を骨子とし、その結果は、各大学への情報提供や成果の確認、今後の企業訪問計画等に役立てる。

アンケート調査のスケジュールは、12月中の「回答」、「集約」を予定する。(回答期間は1週間程度を想定)

(2) 大学との意見交換

令和7年度実施プログラムの方向性に係る意見交換を各大学と事務局ベースで実施する。(12月中)

さらに、各大学と企業間で意見交換を重ね、実施イメージのブラッシュアップをはかる。

各大学と企業間の意見交換については、可能であれば、各大学の工学部長、理工学部長と直接意見交換を実施するとともに、とりわけ、石巻専修大学と東北文化学園大学を重点に進める。

今後の実施計画について

(3) 第2回運営委員会(2月)に向けて

運営委員会の工業会側の委員の正式な委員就任にあたっては、5名の副理事長にお願いすることとし、第5回政策委員会(12/5)において、受諾いた。

(4) 学生向けウェブサイト開設について

ウェブサイトについては、既存の大手就職支援サイトに正面から挑むことは厳しく、効果的な周知方法については検討を要する。具体的な計画立案については、アンケート結果や大学との意見交換を踏まえながら進めることとした。

令和7年度教育プログラムに係る検討（論点）

大卒人材の県内定着をはかるうえで、これまでとは異なり、「就職支援」から「教育」に踏み替え、大学と産業界が連携して、早い段階から人材育成に取り組むこととしている。

学生目線に立ってみれば、県内のものづくり企業のほとんどが認知されておらず、就職先としての選択肢となることが難しい状況となっている。

学生たちの「就職活動」は、3年次になって、就職支援サイトのインターンシップ受入企業を探すことからスタートする。

このため、就職支援サイトを活用していない企業は、存在しない企業同然となっている。（乱暴だが）

（この行は“仮説”。学生または新入社員などに聞き取り、裏付けが必要）

令和7年度の「教育プログラム」を立案する上で、「人材育成」と「企業認知」の両面を備えた内容にするべく検討を進めることとする。

さらに、検討素案にもとづき、大学側との意見交換を通じて、「授業」としての合意形成に持っていきたい。

1, 2 年次教育

仮説ではあるが、学生たちが就職支援サイトを見始めるのは3年次になってから

1, 2 年次のうちに企業説明会や企業見学会等、各種就職支援イベントへの参加に導く「教育」を考える

1 年次教育

・みやぎのものづくり企業（総論）

どんな企業があるか、全体像を把握する

・“おもしろい”社長・・funnyではなく、interesting

みやぎにはこんな気質の社長がいる。

「XX会社の〇〇社長」と言うよりも、「〇〇さん（XX会社）」の構図

まず、人をつなげて、その先にある会社をつなげる。⇒印象に残った会社は？

印象に残った企業の会社のはなし

就職目線ではなく、企業理念など こころの話

「技術者精神」の植え込み（洗脳） → その企業を見てみたい ⇒ 企業見学会（自ずから）

知らない会社から知っている会社へ。ものづくりの楽しさへの理解

1, 2 年次教育

2 年次教育

- ・専門技術分野へのみちびき
どのように学業を活かせるか。入社後のキャリア伸長の可能性
(仕事をしながら、会社も自分もキャリアアップできる可能性があるか・・・キャリア安全性)
- ・具体的に体験してみよう
“出前”体験
企業が大学に出向き、学業と結びついた「疑似体験」の機会を設ける
- ・「授業」を通して会社の魅力を伝える
何を伝えるか・・・ものづくりの楽しさ
- ・「産業と大学」、「業界研究」
というテーマで、「授業」を形づける

インターンシップ

3年次のインターンシップを1, 2年次の教育の延長と捉えれば、その内容や道筋が見えてくる。

2年次の「出前体験」や「疑似体験」をもう少し掘り下げてみたいと言う学生たちの思いを、インターンシップの研修先や研修内容につなげて行ければ、より実のある内容にできると考える。

そして、この会社ならと、就職に導ければと期待する。

大学との係り（私見，所感，雑感）

各大学での「授業」に組み入れ，教育プログラムを実施するためには，大学それぞれのカラーに合わせる必要がある。本プロジェクトに対する期待感もまちまちで，就職担当の思いや先生の思いにも差異があると感じる。

「教育」として実施するためには，先生の思いに応えて行くこととしたい。

勝手な思いだが，既存のキャリア教育や専門教育の一部に教育として入り込み，先生をアシストする形になればいい。ともすれば，「〇〇工学」の一コマをもらい専門教育を行う。これができる大学，できない大学があると思われるが。。

「客員講師」の位置づけでこれを支える。講師料はプロジェクトが負担し，学部，学科により講師を変える。

各大学，各学科の学生においても“濃淡”があり，乱暴に「〇×△」に分類した場合，その比率は学部，学科により異なる。ここで言う「〇×△」は，学業成績ではなく，ものづくり人材としてどうかの視点で，企業が行う「授業」の中で，「〇」に値する学生を見出していきたい。

その上で「集中攻撃」する。。。と受け入れられるか。。

大学と企業の連携（より親密な関係を築くためには）

大学と企業との連携イメージ（距離を縮める）は，

- ・大学リソースの活用
会員企業の社内研修 大学で研修を受ける

企業向け出前講座・・・企業の「技術成果発表会」などで，大学の研究成果をゲスト発表

大学と企業の共同研究

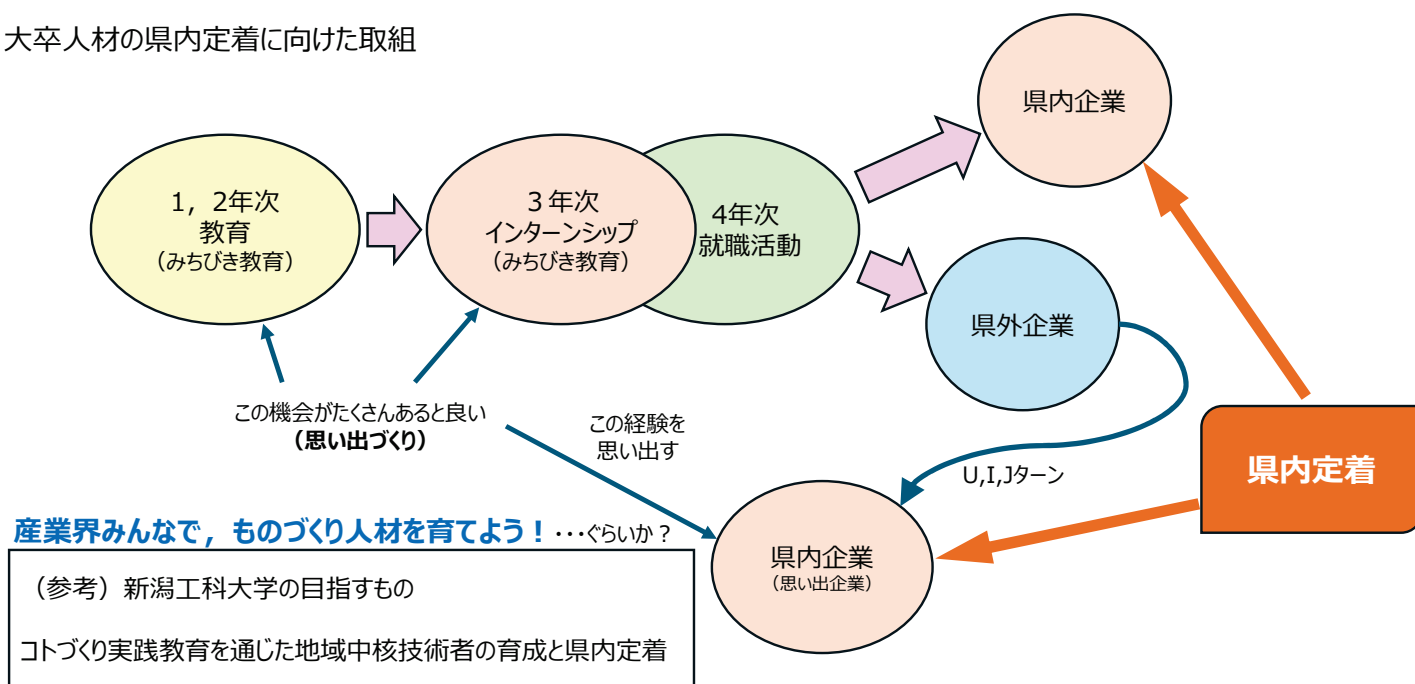
- ・・・少し前だが，AI活用研究の際，「教師データ」を大量に準備する必要があった。この作業に学生の力を借り，さらに，「教師データ」にもとづく実証実験を共同で実施した。

- ・会員企業の経営層，従業員の大学院入学・・・教授との距離を縮める

企業と大学，お互いをさらに深く理解しあえる場を増やしていくことで，その距離を縮めて行く。

プロジェクトの目指すもの（おさらい）

大卒人材の県内定着に向けた取組



(参考) 人材確保状況等に関するアンケート回答状況（所感）

本プロジェクトを推進する上で、採用に係る現状把握等を目的とし、人材確保等に関するアンケート調査を実施した。

会員企業約300社を対象に、12月9日（月）からMLにより調査協力を求めた。
当初、回答期限を12月16日としていたものの、回答数は17社と振るわず、回答期限を12/20に日延べしたものの、12/23現在、49社に留まっている。

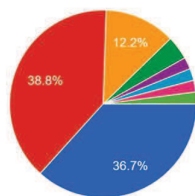
残念ながら、本プロジェクトへの関心も薄まっていることも思量されることから、さらなる「布教活動」によるご理解とご協力をいただく取組が必要と強く感じている。
さらに、忙しい中で協力をいただく限り、「回答したらいいことある」のような、企業の方々のメリットも感じられるような取組も必要と感じた。

また、本プロジェクトの委託元である宮城県側からも、回答数の増大を強く望まれていることから、年明けにも「QRコード」を貼付した「ハガキ」による協力を求めることとしている。

(参考) 人材確保状況等に関するアンケート調査結果 (中間)

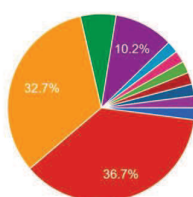
大卒人材の採用実績・ニーズ等

Q 4. 大卒人材の採用実績について
49 件の回答



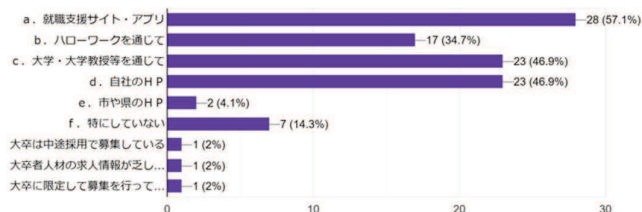
- a. 毎年定期的に採用
- b. 不定期だが状況に応じて採用
- c. 採用していない
- d. 募集はしていないが、必要な人材と思った場合は採用
- e. 毎年募集しているが必ずしも採用できていない
- f. 毎年定期的に採用したいが、採用できない
- g. 良い人がいれば
- h. 中途採用で採用あり

Q 5. 大卒採用のニーズとその応募状況について
49 件の回答



- a. ニーズがあり、募集に応じて十分に応募している
- b. ニーズがあり、募集に応じてある程度応募している
- c. ニーズがあり、募集しているが応募が少ない
- d. ニーズがなく、募集しても応募がない
- e. ニーズがなく、高卒人材等が望ましい
- f. 従来は募集していなかったが高卒の就活で応募が増えた
- g. ニーズはこれまで無かったが今後募集したい
- h. 需要と応募のタイミングによる

Q 6. 大卒人材の募集方法について
49 件の回答



大卒人材の採用実績は、約8割。採用していないは1割を超える

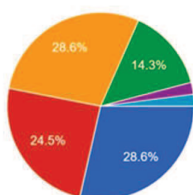
大卒の採用ニーズも8割と高いが、その半数が採用に苦慮している

募集方法は、就職支援サイトは多勢を占める。

以上の傾向が認められるが、工業会全体を示すものではなく、回答母数を増やしながらか傾向を見極めて行く。

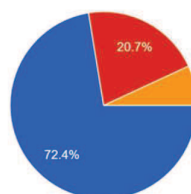
(参考) 人材確保状況等に関するアンケート調査結果 (中間)

Q 7. 大学生のインターンシップの受入れ状況
49 件の回答



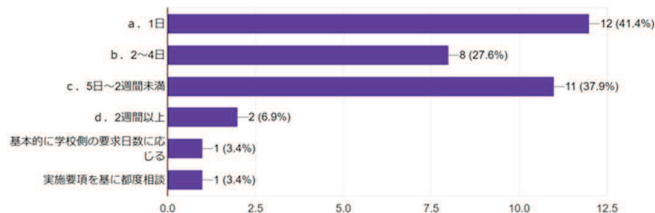
- a. 積極的に受け入れている
- b. 要望に応じて受け入れている
- c. 今は受け入れていないが、検討中
- d. 受け入れる予定はない
- e. 自社企画のインターンシップを受け入れている
- f. 要望が来ない

Q 9. インターンシップにおける実施内容について
29 件の回答



- a. 参加学生や大学に合わせて内容を決定している
- b. あらかじめ決めていた内容で実施している
- c. 参加学生の要望も踏まえ内容を決める

Q 8. 受け入れている場合、インターンシップの日数について
29 件の回答



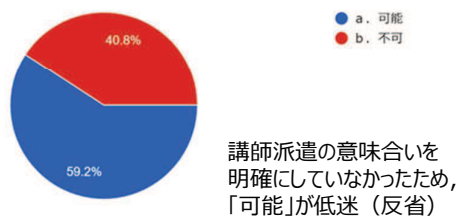
インターンシップ受入企業は、49社中29社
受入予定がないのは、7社

インターンシップの日数は、1日もしくは5日以上が多く占める

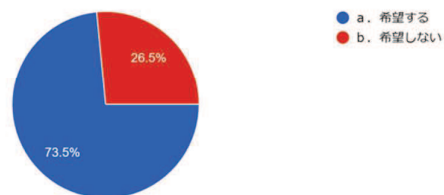
インターンシップの実施内容はカスタマイズが7割

(参考) 人材確保状況等に関するアンケート調査結果 (中間)

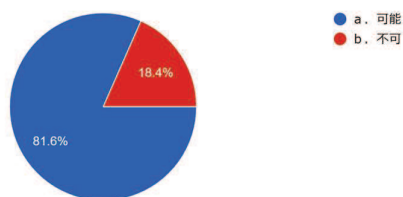
Q 1 0. 4大学(※)の学生を対象に本プロジェ...会等のイベントへ、講師等を派遣することの可否
49 件の回答



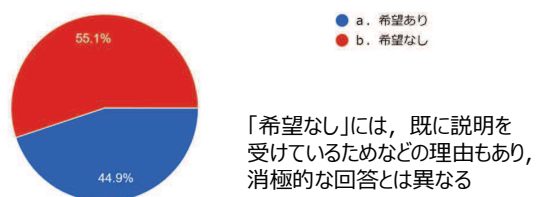
Q 1 1. 4大学の学生を対象に本プロジェクトで実施する企業説明会への参加希望
49 件の回答



Q 1 2. 4大学の学生を対象に本プロジェクトで実施する企業見学の受入れ可否
49 件の回答



Q 1 3. 「ものづくりカレッジプロジェクト」の説明希望の有無について
49 件の回答



MEMO